

国立劇場おきなわ特別公演

◇案内役／金城真次（国立劇場おきなわ芸術監督）

第一部 琉球舞踊

『かぎやで風』『しゅんどう』  
『下り口説』『鳩間節』『浜千鳥』『谷茶前』

第二部 組踊

『執心鐘入』

琉

球

舞

踊

と



組  
くみ



踊  
おどり



2024年2月11日(日・祝) 14:00 開演 13:30 開場

岡山芸術創造劇場 ハレノワ 中劇場

チケット 一般=3,500円／U24=2,500円／U18=1,000円 【全席指定・税込】



岡山芸術創造劇場 ハレノワ 開館事業



「写真提供」国立劇場おきなわ

案内役／国立劇場おきなわ芸術監督 金城 真次

国立劇場おきなわの金城真次芸術監督による見どころ・聞きどころの解説付きで、初めての方も楽しめる上演となっております。

## 第一部 琉球舞踊

琉球舞踊は、老人夫婦の「老人踊」・少年仕度の「若衆踊」・青年のりりしさを表現する「二才踊」・艶やかな紅型衣装を羽織って踊る「女踊」の4種類に分けられる「古典舞踊」、庶民の音楽や風俗を取り入れて人気を博した「雑踊」、現代の踊り手によって作られた「創作舞踊」などに分類される沖縄の舞踊です。



かぎやで風

踊り手／老人 平田 智之 老女 石川 詩子

祝宴や儀式の場において最初に踊られる祝儀舞踊で、子孫繁栄、国家安泰、五穀豊穣の思想が色濃く込められています。琉球舞踊の基礎基本とされ、無駄のない所作の中に凛とした美しさを感じさせます。数ある琉球舞踊の中で最も親しまれている代表的な演目です。



下り口説

踊り手／親泊 久玄

七五調の歌詞に乗せて勇壮に踊る二才踊りで、内容は、薩摩から琉球までの船旅の様子が描かれています。踊りの強弱、小道具のチーグーシの細かな扱い等、二才芸の妙味がうかがえる作品です。

鳩間節

踊り手／嘉数 道彦

鳩間とは、八重山の西表島の北方に鳩の巣のように浮かぶ周囲4キロの小島のことです。この歌は、鳩間島で結願祭の時に踊られる稻穀の豊穣を神に感謝するゆつくりした調子の歌で悠長に踊りますが、この歌がひとたび沖縄本島に渡るや早彈きの軽快なテンポに変わります。大正の初め頃、芝居役者の伊良波尹吉が空手や日舞のかっぽれの技法を取り入れ軽快な踊りに仕立てました。



国立劇場おきなわ特別公演

〈琉球舞踊〉国的重要無形文化財

〈組踊〉国的重要無形文化財  
ユネスコの無形文化遺産

浜千鳥

踊り手／石川 詩子

明治の中期頃、玉城盛重によって振り付けられ、人気を博したと言われています。住み慣れた土地を離れ、愛しい人を偲ぶ旅愁の思いを浜辺の千鳥に重ねて踊ります。沖縄独特の帯を使わない着付け、ウシンチーの美しさが、この踊りの情緒をさらに深めます。



© 国立劇場おきなわ 琉球舞踊「浜千鳥」

谷茶前

指導／伊波 正江

踊り手／西村 綾織 大城 春香 廣山 えりか 新垣 早苗

雑踊の人気の演目のひとつで、漁村の若い男女の働く喜び、生きの力が伝わる打組踊りです。谷茶は本島北部恩納村にある漁村です。裾短めの芭蕉布に裸足で、男は手にエーク（櫂）を女はバキ（籠）を持ち踊ります。魚を捕りに行く男たち、それを売りに行くのは女たちで、漁村の風景が明るく展開されています。



© 国立劇場おきなわ 琉球舞踊「谷茶前」

組  
くみ

踊  
おどり



© 国立劇場おきなわ 琉球舞踊「しゅんどう」

## 第二部 組踊

組踊は、唱え、音楽、踊りによって構成される歌舞劇です。琉球王国の新しい国王を任命するためにやって来る中国皇帝の使者を歓待するため、18世紀初頭に創始されました。



執心鐘入

あらすじ

中城若松という美少年が、首里王府のご奉公に行く途中、行き暮れてむらはずれの一軒家に一夜の宿を乞います。女は親が留守だといって断りますが、男が若松だと名乗ると、若松に恋慕していた女の態度が一変し宿を貸します。若松は女に言い寄られて身の危険を感じ、末吉の寺に駆け込み救いを求めます。座主は若松を鐘の中に隠し、小僧たちに寺内は女人禁制であることを言い付け、鐘の見張りを命じます。

一方、女は若松を追って寺にやってきました。座主は鐘の中から若松を連れ出して、かくまいます。女は鐘にまとわりつき、鬼女に変身してしまいます。座主と小僧たちは、法力によって鬼女を説き伏せ退散させます。



© 国立劇場おきなわ 琉球舞踊「鳩間節」

指導／島袋 光晴

配役／中城若松 田口 博章 宿の女 宮城 茂雄 座主 親泊 久玄 小僧一 平田 智之 小僧二 嘉数 道彦 小僧三 伊藝 武士  
後見 西村 綾織

地謡／歌三線 大湾 清之 横目 大哉 和田 信一 箏 林 杏佳 笛 入嵩西 諭 胡弓 森田 夏子 太鼓 宮里 和希

『執心鐘入』は、玉城朝薦作の組踊五番(二童敵討・執心鐘入・銘苅子・女物狂・孝行の巻)の一つです。1719年の尚敬王(第二尚氏王統十三代目国王)冊封の時、重陽之宴で初演。中城若松との恋が成就しなかった女が激情して鬼に変貌します。若松に罵倒された上に、自尊心を傷つけられた女の心の動きが実によく描かれています。女の心の変化を中心に若松や座主、小僧たちの動きがみどころです。

\*演目・出演者等は変更となる場合がございます。予めご了承ください。

